

【教員寄稿】

Este é um encontro imprevisto também. (これもまた何かの縁)

宮入 亮 (ポルトガル語学科助教)

新入生の皆さん、 muito prazer! このポルトガル語の表現を覚えたのは、かれこれ10年以上も前のことでした。初対面の相手に「どうぞよろしく」といった意味合いで使う表現。prazerは「喜び」を指す言葉でもあります。私なりの解釈ですが、 muito prazerというのは、そういったわけで、出会うことの喜びを率直に表しているのではないかと考えています。皆さんと出会い、私は教える立場にありますが、皆さんと共に学ぶという気持ちを忘れずに、学ぶ喜びを共有できたらと思っています。

出会いといえば、これは思いがけず起こることです。そして、それが時に不思議な縁を結んでくれます。私にとっては、ポルトガル語との出会いというのが縁となりました。高校生の頃、漠然と他の国への関心を抱いていた私は世界史や英語が好きでした。両親が映画好きで、アメリカ映画をよく見せてくれたというのが影響したのかもしれない。通っていた高校では第二外国語の選択授業があり、私はドイツ語の授業に参加しました(難しかったのでほとんど身につけることはできませんでした)。受験の時期になり、特にこれを勉強したいということも決まらないまま、外国語ということでイタリア語、スペイン語、ポルトガル語のどれかという恥ずかしながら半端な気持ちで入試に臨みました。そして、皆さんと同じように、この大学のポルトガル語科に入学することになったのです。合格したときに、母が「縁があったのでしょう」と言っていたことをよく覚えています。

外国語学部に入ってから、そこでは外国語を学び、それを活かして各分野の勉強ができるということで、文学が好きだった私はその分野への関心を強めました。そのような関心を抱きつつ、ポルトガル語を学んでいたとき、ポルトガルやブラジルの文学にはどのようなものがあるのだろうと漠然とした問いが浮かんできました。アヴェンギャルドやラテンアメリカ文学との関連で何かないだろうかと思ってブラジルの文学作品を探していると、アスピリン(実はこれはバファリンとほぼ同じ成分でできている鎮痛薬)に捧げられた詩というのを見つけました。バイエル社の

アスピリンを讃える詩、どうですか、少し変わってますよね? 皆さんもちょっと気になったのでは? 私はというと気になってしまったのが運の尽き。それは冗談ですけども、これがジョアン・カブラル・ジ・メロ・ネットという詩人との出会いだったのです。そして、それが不思議な縁となり、その縁を通じてブラジル文学を研究する先生方との縁がまた生まれ、現在に至っています。

私は今年度から、この上智大学で新たに常勤講師として働き始めることになりました。これもまた一つの縁であり、新しい生活を始めるということでは私も皆さんと同じ立場にあるのだと思っています。ポルトガル語圏の文化や文学は想像以上に奥が深

く、新鮮な魅力に満ちています。そこに踏み込んでいくことも、きっと私たちに、新たな発見と出会いをもたらしてくれるはずです。もちろん、ポルトガル語を通じて、その他の分野を探求することもできるでしょう。そのためのお手伝いできれば幸いです。どうぞよろしくお願いします。